

特集：国際学会参加報告

Vth Asian Pacific Phycological Forum

伊藤 知子（筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程 1年）

11月10日から14日にかけてニュージーランドの首都、ウェリントンにあるビクトリア大学の Pipitea Campus で開催された Vth Asian Pacific Phycological Forum に参加した。本会議は The Asian Pacific Phycological Association (APPA) が3年に1度実施する国際学会で、藻類関係の研究者や技術者が最新情報の交換のために集う。今回の参加者はおよそ240名で、そのうちの約40%が学生の参加者だった。

私は、13日に開催されたポスターセッションにおいて An analysis of spore dispersal ability using AFLP in *Ecklonia cava* Kjellman (Phaeophyceae) というタイトルでカジメの人工群落を対象とした AFLP 解析の結果を発表した。RAPD でカジメの分散を調査している韓国の Dr. Kim と討論をすることができ、今後のカジメ広域分散調査に関して共同研究の相談をすることができた。また、ホンダワラの研究者である Dr. Put O. Ang, Jr. を含む数名からは DNA の抽出方法についての質問を受けた。カジメでも AFLP で再現性が得られるようになるまではかなりの苦労があったが、ホンダワラ類でも同様の苦労があり抽出が困難なので、抽出手法についての論文を読みたいとお願いした。また、総会での Dr. David Schiel の発表では、海藻の分散能研究を分子マーカーを使わずダイナミックに調べる手法で調査を行っており、今後の解析に参考にしようと思った。

本学会では、夕方になると軽い食事と飲み物が出され、日が暮れるのが遅いせいもあったが、気がつくとも毎晩夜7時過ぎまで話をしていた。日本人研究者も多く参加しており、毎日の食事会では知り合いが知り合いを呼ぶかたちで、海外の研究者のみならず、多くの日本人研究者とも知り合うことができた。また、オーストラリアの学生の友人もできるなど、若い研究者と触れ合うこともでき、大変により刺激になった。2009年に日本で行われる IPC(International Phycological Congress)の時までにはもっと英語力を高めて、さらに深いディスカッションができるように励みたい。

Communicated by Masakazu Aoki, Received December 15, 2008.



Vth Asian Pacific Phycological Forum
Wellington, New Zealand, November 10 - 14, 2008

